



March winds and April showers bring May flowers.

校長 田邊 雅也

3月の風と4月の雨が、5月の花を連れてくる

「March winds and April showers bring May flowers.」とは、3月の風と4月の雨が5月の花を連れてくる、というヨーロッパに伝わることわざです。日本の春は、三寒四温で、風が吹いたり、雨が降ったりと、3月、4月は不安定な天気です。このことわざは、「苦あれば楽あり」とか、「人間万事塞翁が馬」や「禍福は糾える縄の如し」などの仲間ではないでしょうか。嫌なことやつらいことがあっても、耐え忍べば未来にはいいことがある、長い人生では楽しいことや嬉しいこともあれば、辛いことや悲しいこともある。しかし、何が幸福で何が不幸かは直ぐに決まるものではない、との教えです。

学級づくりは、家の設計と基礎づくり

「子供は愛されることによってさらに輝く」に、令和4年度は「自律と探究」、そして令和5年度は、「オーセンティック（本物）」と「ウェルビーイング（幸せ）」というキーワードを加えました。そして、約1か月が経ちますが、4月は、新しい友達、新しい先生、新しい学級、新しい勉強など、慌ただしく、緊張した毎日だったことでしょう。「自律と探究」とか、「オーセンティック」や「ウェルビーイング」の学びどころではありません。新しい気持ちで頑張った子もいれば、昨年度の学級を懐かしんでいる子もいます。年度当初の学級とは、家づくりで言うと、設計と基礎づくりですので、これからが本番でしょう。

離任式の涙は、4月の雨

4月28日は、離任式です。昨年までお世話になった先生が帰ってきます。本文を書いているのは離任式の前なので、様子はお伝えできませんが、新生活の緊張の中で、共に過ごした先生が帰ってくる会です。令和3年度は、体育館で3回の分散型での開催、令和4年度は、Zoomでのオンライン開催でした。今年は、2年生から6年生までの846名が、体育館という屋内に、一堂に会することができます。毎年、嬉しさや懐かしさ、そして安心感で涙が溢れ出る子も少なくありません。離任式の涙は、「4月の雨」です。昨年度、学んだことを生かしてがんばるぞ、という気持ちを伝えたり、誓ったりすることが、離任した教職員を安心させるのではないのでしょうか。

「自律と探究」という、大きな花を咲かせる5月

「March winds and April showers bring May flowers.」の「March winds (3月の風)」とは、前の学級でのお別れ、「April showers (4月の雨)」とは、新しい学級での不安や離任式での涙です。では、「May flowers (5月の花)」とは何でしょうか。

4月10日の始業式では、「今の不安は、成長のタネ」だと話しました。NHKのアニメ「はなかっぱ」の数年前の主題歌「そりゃそりゃそうじゃん (2012年)」に、「だれもがもった悩みのタネ、いつかきれいな花になるでしょう (花に変えよう)」という歌詞の一節から引用しました。今の不安や涙は、5月以降の子供たちにとって、自分らしい大きな花を咲かせることができるとタネなのです。May big flowersになるでしょう。

GWは、オーセンティックでウェルビーイングな時間を

「自律と探究 ～オーセンティックとウェルビーイング～」は、教育の新時代を表す六小の目指すべき学校像です。新生活を始めた子供たち、保護者・地域の皆様も、離任した教職員も、もちろん、今年度の六小の教職員も含めて、「自律と探究」の教育活動の中で、全員が大きな花を咲かせることができたら最高です。連休中は、交通事故等にはくれぐれもお気をつけて、学校では味わえないオーセンティックでウェルビーイングのある時間をお過ごしください。連休明けも、ご支援、ご協力をお願いいたします。